

平成20年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

事業の実施

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

(1) 国際連携・協力事業

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(エメックス会議)の開催

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)は、中国上海市において2008年10月27日から30日までの4日間、「河川集水域と河口域との調和」をメインテーマに開催された。

会議では、参加者同士の活発な情報交換や意見交換が展開された。閉会式においては、各セッションの総括報告が行われ、ポスターセッションの発表作品の中からベストポスター賞(2名)と社会活動分野賞(1名)が授与された。また、第8回エメックス会議宣言として「上海宣言」及び「青少年環境教育交流セッション宣言」が発表され採択された。

さらに、次回の第9回エメックス会議に関して、2011年にアメリカ・メリーランド州ボルチモア市で開催したいとの州政府及びシャーリ・ウィルソン環境長官の招致の意向表明の説明があり、満場一致で確認された。

【テ ー マ】	河川集水域と河口域との調和
【日 時】	平成20年10月27日～30日
【会 場】	中国上海市：上海光大国際大酒店（Everbright International Hotel）等
【主 催】	華東師範大学、中国環境科学研究院、(財)国際エメックスセンター
【参 加 者】	37カ国から約470人（うち日本から145人）
【内 容】	(第1日目)開会式、基調講演、全体セッション、セッション6 (第2日目)セッション1・2・6・8、特別イベント、 (第3日目)セッション3・4・5・7・8、全体セッション (第4日目)セッション3・4、 閉会式(セッション総括、ポスター表彰、宣言文採択、 次回開催地表明)



エメックス国際ワークショップの開催

EMEC S 8のセッションとして里海国際ワークショップを地球環境基金の助成を受けて開催した。このワークショップは、里海等の研究者等のネットワークを構築することを目的とし、沿岸域の新しい環境創造方策の概念として里海など地域社会と海の関わりを重視した取組について情報交換を行った。また、ワークショップの開催結果を英文報告書として作成し、関係者に配付した。

[テーマ] 里海～生物生産性と多様性を増大する新しい概念～

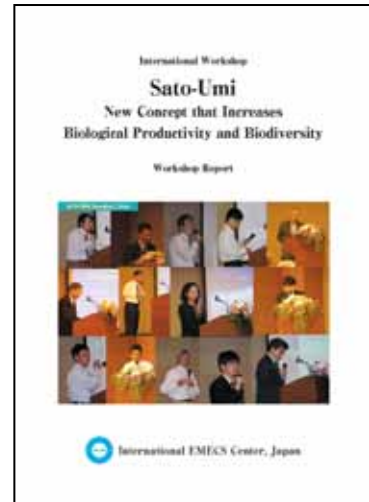
[日 時] 平成20年10月29日(金) 13:45～18:30

[場 所] 中国・上海市 上海光大国際大酒店

[主 催] 華東師範大学、中国環境科学研究院、国際エメックスセンター

[内 容]

柳哲雄教授(九州大学)及び張原根博士(韓国海洋研究所)の座長のもと、7カ国(中国、日本、韓国、タイ、インドネシア、フランス、米国)14名から発表があり、各国の取組について情報交流を行い、共通点、相違点について理解を深めた。参加者は80余名であった。



報告書

エメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて人的ネットワーク構築のため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、専門家間のネットワークの形成に向けた活動、環境の現況・環境教育実施状況など地域環境情報の収集・提供、エメックス活動のPR等を行った。

また、国際エメックスセンターとして将来取組むべき「今後のエメックス活動」について、科学・政策委員会に特別委員会を設置し検討を行い、検討結果を科学・政策委員会に報告するとともに、引き続き検討を深めることとした。平成21年度から実施可能なものから事業化を図っていくこととした。

他の国際機関とのパートナーシップの形成

途上国における閉鎖性海域の環境保全のニーズを把握し、協力できる分野について関係

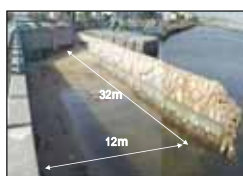
機関との連携を促すため、7月14～17日に東京で開催された第2回EAS(東アジア海域)パートナーシップ会議(国土交通省等主催)および同18日開催の「東アジアの沿岸域の総合的管理に関するセミナー～PEMSEA/JAPAN Joint Seminar～」に参加するとともに、東アジア海域環境管理パートナーシップ(PEMSEA)等と連携するため、上記会議期間中に、非政府パートナーとしてPEMSEAの活動に参画する覚書を締結した。

この覚書に基づき、平成21年11月フィリピンで開催されるEAS(東アジア海域)会議2009(PEMSEA主催)において、里海に関するワークショップを開催することとしている。

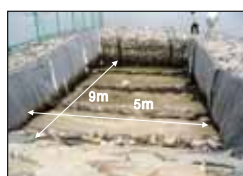
(2) 調査研究事業

閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究

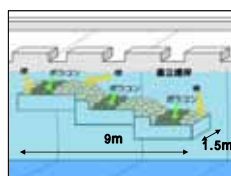
大阪湾の湾奥部は海面の埋立等が進められ、水質・底質、生物の生息環境が悪化している。このような湾奥部の環境の再生をめざして平成13年度に尼崎港に設置した人工干潟、石積堤を用いた閉鎖性干潟、エコシステム護岸及び浮体式藻場の実証実験施設を研究者等との共同研究の場として提供した。また、これらの施設を活用し、社団法人日本鉄鋼連盟等が実施している「鉄鋼スラグ水和固化体による直立護岸の環境修復技術に関する尼崎港域での実証研究」に共同研究者として昨年度に引き続き参画した。



人工干潟



石積堤閉鎖性干潟



エコシステム護岸



浮体式藻場

地域における環境修復・再生実証事業の展開

1. 兵庫県西宮市御前浜は、大阪湾の阪神間における数少ない砂浜であり、ウォータースポーツや散策など市民の憩いの場となっているが、水質・底質などの環境悪化が生じている。この御前浜の水環境を改善するため兵庫県阪神南県民局は、平成17年11月に浅場を造成して実証実験を開始した。当センターは、計画策定の段階から同県民局の委託を受けてモニタリングや啓発事業を行っている。

平成20年度は、継続的な長期モニタリングを行うとともに、過去3年間のモニタリング調査の結果から実証実験施設の評価(考察)を行った。また、県民参加による浜辺調査やアサリの飼育実験を行うとともに、実証実験の結果を報告する市民フォーラムを開催した。さらに、阪神南県民局が設置する「御前浜水環境再生懇話会」への資料作成や御前浜ホームページの更新なども行った。



みんなの浜辺調査



市民フォーラム

2.平成 19 年度に兵庫県から委託を受け「播磨灘の里海づくり事業」を実施し、その中で、赤穂海岸及び相生湾が今後の里海づくり事業の適地として選定された。平成 20 年度も、この両地域について、兵庫県自然環境課から委託を受け、「播磨灘の里海づくり事業」を実施した。

赤穂海岸でのアマモの増殖活動、相生湾での相生市指定文化財天然記念物のシバナの保護育成活動など地元活動団体等の活動を通じて「里海づくり」を推進するため、現地フィールド調査(水質・底質調査、赤穂海岸での藻場の状況調査、相生湾地域でのシバナの分布・生育等の調査)を行うとともに、再生技術の適応可能性について調査を行った。これらを兵庫県が設置した専門委員会等の基礎資料として提供した。



赤穂海岸のアマモ



相生湾那波港シバナ生育エリアの
保護柵イメージ

(3)活動支援事業

閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用を目的とした活動を行うN G O等に情報提供等の支援を行った。

2 情報収集整備活用事業

情報収集・提供システムの運用・管理

世界の閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関する情報を収集するとともに、関連団体等との情報交流を進めるため、インターネットホームページの運用、管理を行った。また、エメックスセンターのホームページを全面的に見直しリニューアルするとともに、メールマガジンの発行体制を構築した。



エメックスセンターのホームページ 新トップ画面

エメックスニュースの発行
 機関紙「エメックスニュース」は、世界の閉鎖性海域に関する情報交換を促進する目的で、国際会議の開催情報や閉鎖性海域環境保全活動の紹介等を日本語及び英語で行っている。
 平成20年度は第28号及び第29号を発行し、国内外の研究者・行政担当者・事業者等に送付した。第29号からは、主にメールマガジンによる配信に変更した。

第28号	<p>[発行年月]平成20年10月</p> <p>[内 容]・EMECS8の開催にむけて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エメックス国際セミナー「海の世界学習と国際交流」開催報告 ・Pre-EMECS8 国際セミナー「中国沿岸域における環境保全と生態系の回復」開催報告 ・科学政策委員からの報告 ・東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）への参画について など <p>[発行部数] 日本語版3,500部、英語版3,400部</p> <p>[PDF配信数]国内480、海外90</p>
第29号	<p>[発行年月]平成21年3月</p> <p>[内 容]・EMECS8開催報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上海宣言（抜粋）青少年環境教育交流セッション宣言（抜粋） ・里海ワークショップ、青少年環境教育交流セッションの報告 ・熊本科学政策委員長の思い出話（チェサピーク湾に始まって） ・科学・政策の動向（国連環境計画地中海行動計画） <p>[印刷部数] 日本語版500部、英語版300部</p> <p>[メルマガ配信数] 国内1066、海外244</p>

3 人材育成事業

閉鎖性海域の水環境管理技術研修

我が国における閉鎖性海域の環境管理に関する経験や技術を、開発途上国に移転するため、独立行政法人国際協力機構（JICA）から委託を受け、閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等を対象に「閉鎖性海域の水環境管理」研修を実施した。

[研修期間] 平成20年5月19日～8月2日	
[研修リーダー] 松田 治・広島大学名誉教授	
[研修内容]	
講義	環境管理及び水質保全等に係る基礎理論及び対策
実習	水質モニタリング、生物モニタリング、リモートセンシング技術等
現地見学	沿岸海域環境に関する研究施設、排水処理施設、環境教育現場等

[研修員]

	氏名	国名	所属
1	トド・サマ・ゴド・モリ	コートジボワール	環境省公害防止センター
2	アマリ・コフィ・アラキ・ベルニク	コートジボワール	環境省環境政策・協力局
3	ラバト・ファビ・オジヨセ	ベネズエラ	環境省プロジェクト調査部
4	ロドリゲス・ネストル・ジヨセ	ベネズエラ	環境省グアイレ川衛生管理プロジェクト

本研修は平成2年度から兵庫県（社団法人瀬戸内海環境保全協会）が実施し、国際エメックスセンターが設立されてから（平成7年度以降）は同センターが実施している。平成2～20年度の研修員合計は29カ国128名。



県庁表敬訪問



船上実習

海の環境学習人材育成事業

これからの海の環境保全を担う人材を育成するため、尼崎港に設置している人工干潟・石積堤等の環境修復実証実験施設や、平成17年度に作成した海の環境学習テキスト「海をもっと知ろう（学習編）」、「海について体験しよう（実践編）」、「海について考えよう（復習編）」を活用し、主として阪神間の小中学生や地域住民等を対象に、海の機能、浅場の機能や役割、大阪湾・尼崎港の現状、海の生物とその働き等を内容とする環境学習を実施した。

[実施場所] 尼崎港内の実証試験施設及び武庫川下流浄化センター会議室

[実施回数] 8回

[参加者数] 240名

[プログラム内容]

環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」

二枚貝を使った海水浄化実験

パックテストによる水質測定

人工干潟等での生物採取と観察

海中プランクトンの顕微鏡観察 他



人工干潟での生物採取と観察



地域住民への環境学習

4 普及啓発事業

Pre-EMECS8 国際セミナーの開催

第8回世界閉鎖性海域環境保全会議のプレイベントとして、「中国沿岸域における環境保全と生態系の回復」をテーマに、急速な経済発展に伴い深刻な状況にある中国における水環境問題に焦点を当て国際セミナーを開催した。セミナーでは、長江をとりあげ、陸域と沿岸域との相互作用に関する科学的知見や政策動向、長江河口域で展開されている生態系回復プロジェクトについての最新情報が紹介された。

また、パネルディスカッションでは、第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8、開催日：10/27-30、開催地：上海市)をとりあげ、会議の役割や、中国と日本、世界との協力について意見交換を行った。なお、本セミナーは環境大臣会合開催記念リレーシンポジウムの一環として開催した。

[開催月日]	平成20年5月16日(金)
[実施場所]	国際健康開発センター(IHDセンター)ビル 9F会議室
[参加人員]	約80人
[テーマ]	中国沿岸域における環境保全と生態系の回復
[講演]	
	長江河口域の生態と環境 翁立達 長江水利委員会科学技術委員会委員・教授、 長江技術経済学会秘書長
	中国の海洋環境保全における陸域汚染対策の現状 鄭丙輝 中国環境科学研究院水環境研究所長 (代理発表) 徐開欽 (独)国立環境研究所主任研究員
	長江からの汚濁負荷が河口域および黄海・東シナ海の海洋環境に及ぼす影響 渡辺正孝 慶応義塾大学環境情報学部教授
	崇明島における生態系回復プロジェクト 陳中原 華東師範大学地理学部教授
[ディスカッション]	
	閉鎖性海域の環境保全に係る国際交流の今後の展開 コーディネータ：徐開欽 パネリスト：講演者



会場の様子

環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、次の環境イベントへパネル等の出展を行った。

[出展イベント] 環境フェア in KOBE (環境大臣会合関連事業)

[開催年月日] 平成 20 年 5 月 23 日 (金) ~ 26 日 (月)

[開催場所] 神戸市立中央体育館

[出展イベント] うんぱく 2008 尼崎運河博覧会

[開催年月日] 平成 20 年 9 月 27 日 (土)

[開催場所] 尼崎市北堀運河河畔

[出展イベント] ひょうごエコフェスティバル 2008

[開催年月日] 平成 20 年 11 月 9 日 (日)

[開催場所] 淡路市しづかホール前

[出展イベント] 第 7 回尼崎 21 世紀の森づくりフォーラム

[開催年月日] 平成 21 年 3 月 14 日 (土)

[開催場所] 尼崎市中小企業センター

理事会、評議員会、科学・政策委員会の開催

1 理事会の開催

第 20 回理事会

平成 19 年度の事業報告及び収支決算報告について承認を得るとともに、評議員の補欠選任を行った。また、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日] 平成 20 年 6 月 16 日 (月)

[開催場所] 兵庫県公館第 2 会議室

[議案等] 議案第 1 号 平成 19 年度事業報告に関する件

議案第 2 号 平成 19 年度収支決算報告に関する件

議案第 3 号 評議員の補欠選任に関する件

報告第 1 号 第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)について

報告第 2 号 東アジア海域環境管理パートナーシップ(PEMSEA)への
参画について

第21回理事会

評議員1名について人事異動があったため、第17回理事会で了解された書面表決による理事会を開催し、評議員の補欠選任を行った。

[開催月日] 平成20年8月27日(水)
[開催場所] 兵庫県庁内会議室
[議案等] 評議員の補欠選任に関する件

第22回理事会

平成20年度の事業計画及び収支予算の変更、平成21年度の事業計画及び収支予算について承認を得た。また、専務理事の補欠選任、顧問の選任を実施し、科学・政策委員会委員の任期満了に伴う改選を決定した。さらに、主要事業について意見交換を行った。

[開催月日] 平成21年3月26日(木)
[開催場所] 兵庫県公館第2会議室
[議案等] 議案第1号 平成20年度事業計画書の変更(案)に関する件
議案第2号 平成20年度収支予算書の変更(案)に関する件
議案第3号 平成21年度事業計画(案)に関する件
議案第4号 平成21年度収支予算(案)に関する件
議案第5号 専務理事の補欠選任に関する件
議案第6号 顧問の選任に関する件
議案第7号 任期満了に伴う科学・政策委員会委員の改選に関する件
報告第1号 第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)の開催結果について
報告第2号 公益法人制度改革への取組みについて

2 評議員会の開催

第19回評議員会

監事1名について人事異動があったため、第17回理事会で了解された書面表決による評議員会を開催し、監事の補欠選任を行った。

[開催月日] 平成20年5月20日(火)
[開催場所] 兵庫県庁内会議室
[議案等] 監事の補欠選任に関する件

第20回評議員会

平成19年度の事業報告及び収支決算報告について同意を得た。また、会長の選任を行うとともに、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日] 平成20年6月11日(水)
[開催場所] 兵庫県公館第2会議室
[議案等] 議案第1号 平成19年度事業報告に関する件
議案第2号 平成19年度収支決算報告に関する件
議案第3号 会長の選任に関する件
報告第1号 第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)について

第21回評議員会

平成20年度の事業計画及び収支予算の変更、平成21年度の事業計画及び収支予算について同意を得た。また、理事の補欠選任を実施した。さらに、主要事業について意見交換を行った。

[開催月日]	平成21年3月19日(木)
[開催場所]	国際健康開発センタービル8階会議室
[議案等]	議案第1号 平成20年度事業計画書の変更(案)に関する件 議案第2号 平成20年度収支予算書の変更(案)に関する件 議案第3号 平成21年度事業計画(案)に関する件 議案第4号 平成21年度収支予算(案)に関する件 議案第5号 理事の補欠選任に関する件 報告第1号 第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)開催結果について 報告第2号 顧問の選任について 報告第3号 任期満了に伴う科学・政策委員会委員の改選について 報告第4号 公益法人制度改革への取組みについて

3 科学・政策委員会の開催

第11回科学・政策委員会

平成20年度活動状況について事務局から報告を行ったうえで、主要事業である第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8)の開催運営手順の確認等を行った。また、科学・政策委員会の新委員候補について了解を得た。さらに、今後のエメックス活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成20年10月26日(日)
[開催場所]	中国・上海市 上海光大国際大酒店
[議題]	議題1：国際エメックスセンターの活動状況 議題2：第8回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS8) 議題3：第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9) 議題4：科学・政策委員会の新委員候補について 議題5：今後のエメックス活動について